

おわりに



最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

本書を読み終えた今、皆さんの心に「やってみたい!」「取り組んでみたい!」、そんな灯がともっていれば光栄です。

本書で紹介した小学校・中学校・高等学校での多様な実践から、ポジティブ行動支援が、どんな学校、どんな発達段階の子どもたちにも届くアプローチであることを、感じていただけたのではないのでしょうか。

お忙しい中、貴重な実践をご寄稿くださった執筆者の先生方に、心より感謝申し上げます。先生方の実践から、学校現場に子どもたちや先生方のたくさんの笑顔が広がっていくと確信しています。

さあ、次は皆さんの番です。

日々の教育活動の中に「ポジティブ行動支援の視点」を取り入れ、小さな工夫を重ねてみてください。その一歩が、目の前の子どもの行動を、そして先生方の毎日を、きっと良い方向へと変えていくはずです。

そして、ぜひ実践を同僚や教師の仲間に伝えていってほしいと思います。ポジティブ行動支援は、教師一人だけで取り組むことは「その時だけ」の支援となり、むしろ子どもたちを混乱させてしまう要因となることもあります。このアプローチの真価は、チームで取り組んでこそ発揮されるものなのです。

学校・地域・社会と広い環境で取り組まれ、「ポジティブ行動支援」という言葉を使わなくても、それが「当たり前」となる社会になること。それこそが私の願いです。

この本を読み終えた今のワクワクした気持ちを、ぜひ大切にしてください。この1冊が、先生方の教育実践の心のよりどころとなり、子どもたちと共に成長し続ける喜びを分かち合えることを心から願っています。

2026年2月

編著者 松山 康成